

Press Release

2007 年 10 月 25 日

各位

大日本インキ化学工業株式会社

TFT 液晶材料専用プラントの新設について

大日本インキ化学工業株式会社（本社：東京都中央区、社長：小江紘司）は、現在テレビ用大型液晶パネル向けを中心に受注が拡大している TFT（薄膜トランジスタ）液晶材料の専用プラントを新たに建設することを決定しました。

新プラントは、液晶材料の生産拠点である埼玉工場（埼玉県北足立郡伊奈町）内に建設します。液晶材料技術棟に隣接し、大型クリーンルームを擁する建屋には、TFT 液晶材料専用原体をブレンドする設備の他、検査設備や洗浄設備などを備えることとしており、投資総額は約 12 億円。建屋の建設は今年末に着工、来年 6 月完成、9 月の生産開始を見込んでいます。ブレンド設備は顧客の動向や受注状況を見極めながら数段階での増設を予定しており、生産能力は最終的に現有 TFT 液晶材料生産能力の約 7 倍にあたる年産 90 トンにまで拡大する予定です。

当社は 30 数年に亘る液晶材料生産の歴史を有し、STN 液晶材料では世界で 50% 以上のトップシェアを有しています。テレビ用大型液晶パネルに用いられる VA（ヴァーチカルアライメント）モードに用いられる n 型 TFT 液晶材料については、2004 年に当社独自構造の材料を開発し、精製技術やフォーミュレーション技術を開発した後、サンプル活動を通じて長期信頼性などの最終調整を行ってきました。今年の 2 月、大手液晶パネルメーカーに初めて採用され、テレビ、パソコンモニターなどの大型用パネルやカーナビゲーション、デジタルカメラなどの中・小型用パネルに使用されるようになってきました。採用後、製品の引き合いが急速に拡大しており、現在の出荷量の数倍に上る増量が要求されています。また、今後さらに顧客数が拡大することも見込まれることから、生産能力・体制の強化・充実を図るために、このたびの TFT 液晶材料専用プラントの新設を決定しました。

当社は今回の新プラントの稼動を機に、TFT 液晶材料事業の基盤を確立するとともに、さらに規模の拡大を図り、2012 年には液晶材料事業トータルで売上高 500 億円を目指します。

なお、現在当社が製品化している液晶材料は、実用液晶としてはじめてトリフルオロナフタレン環を有する新規液晶化合物を含有しています。この化合物は負の誘電異方性が画期的に大きく、従来と比べて少量の含有量で所望の駆動電圧を得ることができます。また、本化合物の量産は、ナフタレン環に 3 つのフッ素を導入するフッ素化技術と、不純物を ppm オーダーで管理する精製技術の確立により実現することができました。今後、これらの技術をさらに磨き上げることにより、当社 TFT 液晶材料のさらなる性能向上を目指します。

以上

本件に関するお問い合わせ 広報・IR 部 TEL 03-5203-7838